



箱に入ったらいいねん!

3・2・1!



エピソード

保育室で、ダンボールを坂道にして、プラスチックカプセルを転がし「転がった」「もう一回!」と遊んでいます。遊ぶうちにカプセルの中にペットボトルのふたを入れたり、転がすものを筒芯や新聞ボールに変えたりと身近な素材を見つけては転がして遊ぶことを楽しんでいました。すると、Aくんが「この箱に入ったらいい」と箱を置きました。「面白そう」と何度も転がし、箱に入ると「入った」と嬉しそうに喜びます。次にBくんがペットボトルの蓋を積み重ね「これ、倒れたらいいねん」と言いました。保育者が「倒れるかな」と言いながら見ているとA、Cくんはやってみようと、転がし出しますが上手く倒れません。すると、Bくんがビニールテープを持ってきて転がしました。「やった!倒れた」と喜ぶBくんを見て、周りの友達もビニールテープを持ってきて転がしました。「ぼくのは青ね」「ぼく緑」と自分の転がすものに目印ができてより楽しみながら遊んでいました。

保育者の思い

・転がることを楽しみ、自分の転がしたいものを見つけて転がそうとしたり、友達と一緒に転がすことを楽しんだりしてほしいと思いました。

・転がす中で、新たな考えが生まれ、友達とやってみようとする姿を見守りたいと思いました。

・倒れた喜びを感じ、周りの友達も一緒に喜んだり同じものを取りに行ったりする姿を見守る。

・上手くいった喜びを感じ、より遊びを楽しんでほしいと感じました。

子どもの育ちや学び

- ・いろいろな身近な素材を転がしてみることで、転がす楽しさを感じ繰り返して遊ぶ姿が見られました。
- ・箱に入りたい思いや、積んであるものを倒したい気持ちが芽生え、試しながら遊びました。
- ・上手くいったことを喜び、ビニールテープの色で友達と一緒に転がすことの楽しさが増しました。
- ・同じ場で遊ぶ友達の様子を見ることで、自分も試してみよう、やってみようとする気持ちがありました。

家庭だったら・・・

遊びの中での子ども達のアイデアや発想には、見ていて楽しいなど感じるものがたくさんあります。子どもたちなりに考えていることに、少し耳を傾けてみませんか?こんな風に考えるんだ…と子ども達の新たな一面に出会えるかもしれませんね。